若 き 友 へ

2012 年 1 月 22 日
経済学部教授　髙島　均

所感 11－7　グアテマラ通信その 7－蝶の死

子供の頃から、蝶を追いかけ、蝶を採って標本作るのが趣味でした。定年が近づいている今でも、どこか行くときには、ネットを持っていきます。捕まえた蝶を殺して三角紙に入れようとしたときに、ボロボロなのに気づいて、ああ、殺さないで逃がしてやればよかった、と思うこともありますが、綺麗な蝶を捕まえて三角紙に入れるときには、蝶を殺したことに気が咎めることはありませんでした。
今朝、アパートのパティオを、小さな白い蝶がひらひらしているのを見つけました。捕まえてみたら、ボロボロの、グアテマラにはよくいる蝶でした。逃がしてやると、ひらひらと飛んで行きました。しばらくして、妻が、『蝶がいるわよ』と私に声を掛けました。見てみると、さっきに逃がした白い蝶が流し場の近くにとまって羽を開いていました。『ボロボロだよ。もうすぐ死ぬんだと思う。』と言って、水が飲みたいのだろうと思って、手の平に水をとって蝶に近くに掛けてやりました。すると、蝶は水のかかった場所にひらひらと飛んでいって、じっと静かに止まりました。そこは、水がかかった場所から少しずれていましたが、もう、それ以上動く力も無いようでした。そこで、じっと羽を開いて日の光を浴びていました。
昼ごろ、妻が、『蝶が死んでいる!』と、私を呼びました。行ってみると、さっきの白い小さな蝶でした。拾い上げてみると、まだ目は生きているときと同じように緑色をしていましたが、6 本の足は、すでに硬直し、私の不細工な指で触っただけで、何本か折れてしまいました。今まで、たくさんの蝶を、捕まえて、殺し、標本にしてきました。でも、蝶が、命の炎が消えて、死んでいくのを見たのは初めてでした。神様が創られたものは、どんなものでも、いずれ、神様のところに帰るときが来る、ということを、死んで行った小さな蝶は、私の心に深く刻み込んでくれました。　2012 年 1 月 22 日